

近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政



No.37 2021年1月発行



2021年新しい年が始まりました。

1997年出版の「2020年からの警鐘」(日本経済新聞社)に次のくだりがあります。「グローバル化により、一国で発生した感染症は旅行や貿易を通じ瞬く間に広がる。感染症は、症状の表れないうちに航空機で病気を運ぶので、水際での防止も限度がある」。23年前に指摘された事態が、まさに2020年世界中で起こりました。



新型コロナウイルス感染に伴い、私たちはこれまでの日常生活を我慢し、延期し、諦めざるを得ませんでした。卒業・入学・入社式、冠婚葬祭、子どもたちの触れ合い、大学生のキャンパスライフ、高齢者の外出…。一方で、自分たちの仕事、働き方、家族との時間、身近な行政のあり方等、本当に大切なものは何かを見つめなおす機会となったことも事実です。

身を粉にして人々のために働いてくださる医療従事者、保健所の皆様、介護関係者、保育士さん等に感謝し、またコロナ禍で厳しい生活を強いられた方々の存在を忘れることなく、この辛い時期、気持ちをアップして前向きに進む努力をしていきたいと思ひます。

昨年は中野区に「犯罪被害者等支援条例」を制定することができました。10年以上にわたり訴え続けた結果です。応援してくださった皆様に心から感謝いたします。

皆様にとって明るい年になりますことを願ってやみません。本年もよろしくお願いいたします。

いま中野区は!

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、区は第9次補正予算を組み、一般会計の事業費総額は約411億円になりました。財政調整基金(区の貯金)の残は約266億円です。

ひとり親世帯への2回目の支援として臨時特別給付金(国庫支出金)、スポーツ・文化施設利用者減に対する補償(一般財源)、在宅要介護者受入体制整備事業(都支出金)、在宅生活者増加に伴う資源ごみに係る経費、商店街を応援するプレミアム付き商品券事業、国の特別定額給付金の基準日翌日以降に出生した新生児への特別定額給付金、住宅確保給付金、増加した各種事務等にかかる費用等です。

一方、来年度は、今年度と比較して92億円の減収を見込んだ予算編成を行っています。区は、行財政の構造的な改革を集中的に進め、持続可能な区政運営を目指しますが、コロナ禍の厳しい状況の中、今後、中野区基本構想、基本計画、公共施設の配置等、これからの区政運営の計画が示されていきます。

旧中野刑務所正門の取扱いについて

旧法務省矯正管区敷地内(新井3丁目)にある旧中野刑務所正門についての取扱いが議論されています。この正門は、建築家 後藤慶二の代表作であり、大正期の日本のモダニズム建築を代表するものです。

区は平成31年「現地での保存」を決定しましたが、その後、曳家(ひきや)移築を含めた議論となり、令和2年7月中野区文化財保護審議会の答申を受け、正門は文化財価値が高いこと、平和の森小学校新校における良好な教育環境の確保との両立を図るために、門を敷地内の西側に曳家により移築し、保存、公開していくことが示されました。

しかし、曳家には約5億円の費用と5年8ヶ月の年月がかかります。貴重な文化財である門をどのように保存していくのか、議会の意見が割れています。


<http://saekonikki.exblog.jp/>


日々の活動をお知らせしています。

11月1日 中野コンポスト連絡会

昨年、中野区区民公益活動推進基金からの助成を受けてダンボールコンポストのモニター事業を行いました。今日は、4回の講座で学習された皆さんの家庭から出たごみから作った堆肥を使った鉢植えを、統合新校の小学校にプレゼントしました。

約20人の方がボランティアで新しい小学校に花を植えました。中野コンポスト連絡会の92歳のメンバーも一緒に重いプランターを運んでいました。

4回の講座と今回の植え込みに参加して下さった方からは、「ごみの削減、小学校の環境作り、楽しく作業すること等どれも良い事なので、他の所でもやりたい」との声がありました。



12月4日 途切れない支援を被害者と考える会

社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事、東京都児童相談所協力弁護士等多くの子どもの権利擁護における活動をされている吉川由里弁護士をお招きし、「児童虐待対応の現場から見る子どもの権利擁護」について講演をいただきました。

子どもシェルターや自立援助ホーム等の運営をしているカリヨン子どもセンターについて説明いただき、このような施設で、子どもたちを見守り自立に導いてくれる大人の存在は大変大切だと思ひました。

若い福祉職の職員も吉川弁護士の話を熱心に聞いていました。「途切れない支援を被害者と考える会」が彼らの育成に少しでも貢献できていることを嬉しく思ひます。



私の議会報告

近藤さえ子は第3回および4回定例会で以下の質問をしました。



2020(令和2)年 第3回定例会 一般質問(9月11日)

1. すこやか福祉センターの相談機能の強化について

4か所のすこやか福祉センターは再編案等が示されてきたが、さらにもう1か所設けることは財政的な観点から厳しいのではないのか。

全世代型地域包括ケア体制の取り組みが始まり、多種多様な課題に対応し支援ができるよう若い職員の教育等にも力を注ぎ、相談機能をさらに高めて行くべきと考える。

区長 区内5か所の考え方に変更はない。

2. 新区役所の整備について

新型コロナウイルスの影響で悪化する財政状況を鑑み、区営施設の改築・改修計画は見直されているが、なぜ莫大な税金を投入する新庁舎整備のスケジュールは見直さず、そのまま進める方針なのか。

区長 現庁舎は、災害応急活動の性能が不十分、窓口不足等の課題があるため計画どおり整備していく。

3. 感染症対策、感染による影響について

コロナ禍で、特に障がいを持つ方のケアについては、家族が罹患した緊急時にすぐに預け先を探すことは大変厳しい状態である。どのように支えていくのか。

健康福祉部長 支援の具体化に向けて調整を図る。

総括質疑(9月23日)

近藤 「学童クラブは現在ある児童館の中に残し有効活用するべき」と私が長年言い続けたことを、初めて区は認めた。遅すぎる。まだ商店街等に設置場所を探し続けるのか。

育成活動推進部長 最も効率的な方法を考えていきたい。

近藤 鍋横区民活動センターの整備については、地域の合意が取れていない。施行時期を見直すと言うが、計画は見直されるのか。

地域活動推進課長 施行時期や併設施設の見直しも含め検討している。

近藤 複合施設の整備は、地域に必要な施設を最優先し住民の合意を図るべきではないか。

企画課長 皆様の話を伺い、十分に説明し理解を得ながら、ふさわしい施設機能の導入を進めたい。

近藤 昨年・今年と私は中部スポーツコミュニティプラザについて改善を求めてきたが、改善はされたのか。

スポーツ振興課長 利用者数増加の見直しを行っている。

近藤 予約システムで予約済みなのに、当日施設が空いているとの苦情がある。哲学堂や上高田のテニスコート等は当日のキャンセルに対応している。1人でも多くの人が使えよう改善を求める。

スポーツ振興課長 予約期限は利用日の3日前、その後は利用者の操作ミスを防ぐため入力できない。指定管理者とも相談して行きたい。

2020(令和2)年 第4回定例会 一般質問(11月30日)

1. 児童相談所の設置について

中野区は2022年2月児童相談所の開設を目指し準備を進めている。児童相談所は、虐待などで支援が必要な子どもたちを見逃さず、しっかり支えることが出来るよう、地域の子育て環境とのネットワークをさらに実効性のあるものにすることが必要だと考える。区はどのようにリーダーシップを発揮していくのか。

区長 関係機関との連携により実効性のあるものにしていく。

2. 保健所の体制について

現在の保健所の職員体制はどのようになっているのか。委託事業者等の派遣職員を増員してでも保健所体制を強化するべきだ。もしこの厳しい状況の原因が人員不足だけではなく、体制に問題があるのであれば、仕事の検証・改善に早急に取り組む必要がある。

総務部長 人材確保の努力を継続し、業務の効率化や優先順位付けにより人員を捻出する。

近藤さえ子の反対討論(抜粋)

第92号議案に反対の立場で討論をいたします。……………

この議案は、中野区の3箇所のスポーツ・コミュニティプラザの運営について、(株)東京アスレチッククラブ(以下TACと言う)と(株)プロスペックで構成される「なかの未来グループ」を指定管理者として令和3年から8年まで指定するものである。TACはこれまでも3施設の管理運営を行い、中には評判の良い施設もあるが、3施設が1本の指定管理者契約となっているため、全ての契約に反対せざるをえない。

◆**反対理由1** 中部スポーツ・コミュニティプラザについて区民の評価が低い。近隣5箇所のスポーツ施設と同様の体操プログラムは、参加者が3~5人のコースも複数あった。区民のニーズに合わなくても改善せず、指定管理者制度に甘えてきたとしか思えない。

◆**反対理由2** 利用者の声に耳を貸さず、見直しを検討もしない。例えば、中部スポーツコミュニティプラザでスポーツ吹き矢を楽しんでいる団体は、その重い吹き矢の的を毎回大変な思いをして自宅から運んでいた。倉庫に的を置かせて欲しいと依頼したが、TACは「各自で道具を運べないのであれば、あなたたちはこの施設を使えない」趣旨の

返答をした。その後、区の計らいで改善されたが、スポーツを楽しむどころか高齢者が具合悪くなる可能性もあった。区民を無視した方針では、指定管理者を再度依頼したいと思えない。

◆**反対理由3** 選考基準について疑問がある。今回のプロポーザルには2つの団体の応募があり、わずかな差で敗れたA団体は、豊富なメニューと新しい体験等事業提案で勝っていたと報告されている。しかし、営業拠点が区内にあることがポイントとなりTACが選ばれた。総合評価方式の問題点がでてしまったと考える。

以上3つの理由を持って、私の反対討論とする。



こ へだ

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(5期) 趣味:テニス

こ へだ

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com